

平成二十六年富山県立大学入学式式辞

平成二十六年四月七日（月）

アイザック 小杉文化ホール ラポール

三百三十六名の新入生の皆さん、そして、ご家族の皆様、ご入学おめでとうございます。私たち教職員は、心から皆さんのご入学を歓迎いたします。

また、本日は、寺林富山県副知事をはじめ多くのご来賓の皆様に、ご臨席を賜りました。心からお礼を申し上げます。

まず、学部新入生の皆さんにお話します。

皆さんは、高い競争倍率の、狭き門とも言うべき本学入学試験に見事合格し、本日の入学式を迎えました。こうして選ばれた皆さんは、自ら研鑽に励み、地域、そして我が国の発展を担う人財として立派に成長し、社会に貢献することが期待されています。

皆さんを迎える本学は、人間性豊かな創造力を備えた社会に貢献する人財を育成し、また学術と産業との有機的連携を進め、もって地域及び社会の発展に貢献することを目的に設立された、創設から25年目のまだ若い大学です。工学の知識だけでなく、それをを用いる上で必要となる高い知性や人間性を備えた優れたエンジニアやリサーチャーを育てることを基本的理念としています。比較的小規模な工学部単科大学ですが、工学部5学科・大学院5専攻を有し、地域の知の拠点となるべく、優れて世界的な研究を展開するとともに、行き届いた教育を行っています。こうしたことにより本学が「就職に強い大学」として高い評価を受けていることは、皆さんよくご存知のことと思います。

皆さんは優れたエンジニア、あるいはリサーチャーになることを志して本学に入学されたことと思います。その初心を決して忘れないでください。

これから、本学において、勉学に励むこととなりますが、ここで、皆さんに大学と、中学校や高校との違いについて、申し上げたいことがあります。

例えば、高校では、授業時間は五〇分で、試験範囲は、教科書の何ページから何ページまでというような具体的な指定があったかと思います。一方で、大学では、九〇分一コマの講義一五回で、一科目が構成され、試験範囲は、講義で話した内容とか、教科書や参考書何冊といったように、範囲が広く、また、途中でレポートや中間試験などもあります。皆さんお分かりだと思いますが、つまり、「試験前の一夜漬け」などは通用しません。実際、国が定める大学設置基準では、皆さんが、一科目の単位を修得するためには、実際の講義時間に加

え、その二倍の時間に相当する自宅等での関連学習を必要としていることを覚えておいてください。

毎日の学習という一步一步のたゆまぬ努力が必要となります。こうした地道な努力により、講義の狙いを的確に把握し、体系的にものごとを捉え、より具体的な課題を認識することができるようになり、また、その過程で獲得された知識が集積され、さらに、クリティカル・シンキング（critical thinking＝批判的思考）する力が養われると思います。独創性といったものも、こうした努力により生まれてくると思います。独創性は決して生まれつき備わっているものではありません。努力した者だけが獲得するものだと思います。

皆さんの努力に應えるため、本学では、数々の行き届いた教育を実践しています。

例えば、1年次の対話型の教養ゼミに始まり、4年次の卒業研究に至るまで、すべての学年で少人数の学生と教員とが触れ合う場を用意しています。さらに、全学年を通して、環境リテラシーを育む環境教育プログラム、そして学生の自立を促すキャリア教育を実施しています。このような場や体系化されたプログラムにより、専門知識だけでなく、それを活用するのに必要となる広い視野やコミュニケーション能力、正解のない問題に取り組んで行く力と使命感などが養われます。

また、本学では、昨年度からCOC（Center of Community）教育研究プログラムを実施しています。これは、文部科学省が推進している「地（知）の拠点整備事業」の初年度、平成二五年度に、全国六倍の競争率のなか採択された教育研究プログラムです。本学では、「『工学心』で地域とつながる『地域協働型大学』の構築」を目指し、地域産業の振興や超高齢化社会への対応などの課題について、企業や自治体など地域関係者と一緒に学生が自ら主体的となって具体的な課題を見出し、課題解決にむけて努力する教育研究プログラムを用意しています。

さらに、大学生活においては、同じ目標を持つ多くの学友と生活を共にしたり、教職員と触れ合う機会も多いと思います。学業の場はもちろん、サークル活動をはじめとした正課外のさまざまな活動を通じて、積極的に同級生や先輩、教職員と親しく交わり、楽しい充実した学生生活を送っていただきたいと思います。同級生、先輩や教職員との交流は皆さんの大学生活を豊かなものにしてくれるばかりでなく、皆さんを人間的にも成長させてくれることと思います。

次に、大学院工学研究科新入生の皆さんにお話します。

皆さんのうちのほとんどが、本学で学部生活を送ってきたと思います。どうか、学部新入生、そして在学生の模範となるような学習・研究態度で、キャンパス内をリードしていただきたいと思います。

特に、先般の学位授与式でも申しあげましたが、国際性を備えることに努力して欲しいと思います。私は、研究成果を出した大学院生については、可能な

限り、国際学会に参加させ、英語で発表する機会を与えるよう、全教員にお願いしています。体験を通してより高い国際感覚を身に付けるチャンスです。皆さんには、このような絶好の機会を逃さないようにしていただきたいと思います。

そして、皆さん全員にお話します。

かつて、わが国は、世界に誇る高度な科学・技術立国として発展しましたが、たいへん残念なことに、最近20年間について、「失われた20年」といった言われ方も聞かれます。事実、技術開発を他国に譲ることが多くなっています。しかし、我が国にはまだまだ底力があると思います。我が国が、新たな時代の技術立国として名を馳せることは可能だと思います。

そのためには、何よりも新しい技術の創造に熱意を持つ多くの若いエンジニアやリサーチャーが必要となります。皆さんには、本学において「勇気」と「好奇心」を持って勉学に励み、社会に貢献できるエンジニアやリサーチャーとして立派に成長し、その一翼を担っていただきたいと強く願います。

皆さんの前途にはたくさんのやりがいのある仕事が待っています。皆さんの将来には明るいものがあります。

初心を忘れず、将来優れたエンジニアやリサーチャーとして社会に積極的に貢献するという夢を持って、これからの大学生活を有意義に送られることを、心から祈念し、式辞といたします。

平成26年4月7日

富山県立大学 学長 石塚 勝